

15.交通に関する施策

■施策評価シート

15-01-①

まちづくりの基本目標	「暮らし」支えるまち	分野	交通
基本方針	公共交通ネットワークの構築	基本方針に関連するSDGsの目標	   
施策番号	15-01-①	施策名	公共交通ネットワークの充実

施策の概要

誰もがいつでも安心して移動できる公共交通ネットワークを維持・確保するため、生活拠点を中心に民間路線バスとまめバス・まめタク等の公共交通機関の役割分担と連携により、地域の維持・活性化につなげます。

さらに、関係機関とも連携しながら、JR 草津駅・南草津駅周辺をはじめとする慢性的な交通渋滞の緩和や解消を行うとともに、運転免許証自主返納高齢者支援制度の充実や地域でのワークショップの開催などにより、公共交通の利用促進を進め、公共交通ネットワークの充実を図ります。

成果指標(単位)	地域公共交通の利便性に満足している市民の割合(%)				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値	(※基準値)	48	49	50.1	51.1
実績値	46.9	46.8			

成果指標実績に対するコメント

まめバス・まめタク等の年間利用者数について、まめタクは前年度実績を下回ったものの、まめバス・くるとバスについては約26,000人増加した。しかし、成果指標については前年度実績を下回り、目標値についても達成することができなかった。まめバスは平成25年10月の本格運行開始から年々利用者数が増加しており、日常生活の移動手段として浸透しつつあるものと捉えているが、まめタクについては利便性の向上の取組と合わせ、一層の周知が必要と考える。

施策の達成度評価

まめバス・くるとバスにおいて、夏休み期間中に「こども(小学生以下)無料乗車実証実験」を行い、まめバス・くるとバスの利用のきっかけづくりを行ったことや、社会医療法人誠光会と連携して実施した、病院の送迎バスを活用した補完的な交通手段を提供する実証事業を実施したことで、地域公共交通の利便性の満足度に繋がったと評価する。まめタクについてはワークショップの開催により、ルートやダイヤを地域と一緒に考えることができたが、交通不便地である老上西学区への新規路線導入の検討が必要と考える。

当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標「No.12 私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる」、「No.19 暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である」は、どちらも実数が昨年度から0.1ポイント上昇することができた。当市の公共交通力パー率(駅やバス停が一定の距離の範囲内にある住民の率)は96%であり、こども(小学生以下)無料乗車実証実験によるコミュニティバス等の周知や、草津駅前地下駐車場の適正な運営による路上駐車抑制が評価されたものとする。

評価に基づいた令和9年度の取組についての考え方

令和6年度策定の「草津市地域公共交通計画」に基づき、市民(地域)・交通事業者・行政が連携、協働することで、市民の地域公共交通への満足度の向上を図る。また、引き続きまめバス、まめタクの運行を維持することに加え、まめタクの老上西学区への導入を検討するなど、生活拠点へのアクセス向上を図るための取組を進め、利便性の高い持続可能な公共交通ネットワークの充実を図る。

公共交通ネットワークの充実に関する取組は、「No.12 私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる」、「No.19 暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である」といった指標にかかるウェルビーイング向上にも資する取組であるとされており、こうした上昇傾向を踏まえ、引き続き、ウェルビーイング向上の観点からも、既存の地域公共交通を維持しつつ、地域の実情に応じた路線再編やダイヤ改正による乗換利便性の向上などを実施していく。

■施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
公共交通対策事業	交通政策課	○	まめバス・まめタク等の運行を維持・確保することなどにより、地域住民の移動手段の確保に寄与することができたため。

■施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
草津駅前地下駐車場運営事業	交通政策課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未達の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策評価シート

15-01-①

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】											
主観指標項目		区分	令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度
12	私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	実数	3.1		3.2						
		偏差値	49.7		51.4						
19	暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	実数	3.1		3.2						
		偏差値	55.2		57.9						
関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】											備考
客観指標No. (令和7年度)			16	18							

まちづくりの基本目標	「暮らし」支えるまち	分野	交通
基本方針	公共交通ネットワークの構築	基本方針に関連するSDGsの目標	   
施策番号	15-01-②	施策名	鉄道駅周辺での自転車利用環境の整備

施策の概要

公共交通の補完手段として、自転車の有効的な活用展開を図り、鉄道駅周辺における需要に対応した自転車駐車スペースを確保するとともに、放置自転車対策の強化を進め、自転車利用環境の整備を図ります。

成果指標(単位)	市営自転車駐車場利用者数(人)				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値	(※基準値)	336,828	340,828	344,828	348,828
実績値	332,828	364,252			

成果指標実績に対するコメント

市営自転車駐車場の利用者数については、前年度実績を大きく上回り、目標値についても達成することができた。令和7年4月から供用を開始した草津駅西口自転車駐車場を含め、今後も指定管理者と密に連絡を取り、管理運営を継続することで、利用促進および目標値の達成を図る。

施策の達成度評価

自転車駐車場については、既存の駐車場および草津駅西口自転車駐車場、(公財)自転車駐車場整備センターにより令和7年12月から供用を開始した南草津駅西口第2自転車駐車場の運用により、需要に応じた自転車駐車スペースの確保・維持を行うことができた。放置自転車については、夜間の見回りを強化したことで、撤去台数が前年度実績と比べて増加し、自転車利用環境の改善につながった。今後も鉄道駅周辺の自転車駐車スペースの整備を実施するとともに放置自転車対策を継続していく。

当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標「No.19 暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である」は実数が昨年度から0.1ポイント上昇した。

これは草津駅西口自転車駐車場および南草津駅西口第2自転車駐車場の供用開始により、利便性向上に寄与したことが一因と考える。

評価に基づいた令和9年度の取組についての考え方

今後も需要に応じた自転車駐車スペースの確保・維持を行うとともに、放置自転車対策を継続して進めることで、鉄道駅周辺の自転車利用環境の整備を図る。また、公共性を有する交通手段であるシェアサイクルの導入を検討するなど、公共交通の補完手段として、自転車の有効的な活用展開を図る。

自転車利用を促進し、駅周辺における需要に対応した自転車駐車場の運営を行うことは、「No.19 暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である」といった指標にかかるウェルビーイング向上にも資する取組であると考えており、こうした上昇傾向を踏まえ、引き続き、ウェルビーイング向上の観点からも自転車利用環境の整備を行い、需要に応じた自転車駐車スペースの確保・維持、放置自転車対策を継続して進める。

■施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
草津駅西口周辺自転車駐車場運営事業	交通政策課	○	草津駅西口自転車駐車場の供用を開始し、徐々に定期利用と一時利用の受入れ台数を調整することで、状況に応じた管理運営を行い、自転車利用環境を整えることができたため。
草津駅東自転車駐車場運営事業	交通政策課	○	定期待ちが発生しないように、引き続き定期利用と一時利用の受入れ台数を調整し、状況に応じた管理運営を行い、自転車利用環境を整えることができたため。
南草津駅駐輪・駐車場運営事業	交通政策課	○	サイクルラックに停めることができない大型自転車を停めることができるよう、専用置場を増設するなど、引き続き利用者のニーズに合わせた管理運営を行い、自転車利用環境を整えることができたため。
放置自転車対策事業	交通政策課	○	鉄道駅周辺の放置自転車禁止区域において、引き続き看板やステッカー、周知チラシによる啓発を実施し、夜間の巡回を強化して放置自転車の撤去等を行うことで、駅前の良好な都市景観を保つことができたため。

■施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課

成果達成度の表示について

◎ 期待を超える成果があった
○ 期待どおりの成果があった
△ 期待未満の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】							
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
19	暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	実数	3.1	3.2			
		偏差値	55.2	57.9			

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】								備考
客観指標No. (令和7年度)		18	101	102				

まちづくりの基本目標	「暮らし」支えるまち		分野	交通
基本方針	交通安全対策の推進		基本方針に関連するSDGsの目標	  
施策番号	15-02-①	施策名	交通安全意識の高揚	

施策の概要

交通事故防止につなげるため、交通安全教育を推進するとともに、各種啓発活動や街頭指導、自転車安全安心利用の推進等に取り組み、あらゆる世代における交通安全意識の高揚を図ります。

成果指標(単位)	交通安全教室や自転車安全安心利用教室への参加人数(人)				
	令和6年度 (※基準値)	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値		5,033	5,403	5,773	6,143
実績値	4,663	4,109			

成果指標実績に対するコメント

交通安全教室への参加人数は前年度実績に比べ増加したものの、自転車安全安心利用教室への参加人数が減少し、合計としては前年度実績を下回り、目標値についても達成できなかった。自転車安全安心利用教室の参加人数減少については、中学校等母数が多い団体による教室開催が少なかったことによるものであり、児童数が減少する中で、自転車安全安心利用教室の実施を呼び掛ける対象を再考する等により目標値達成を目指す。

施策の達成度評価

交通事故防止につなげるため、引き続き対象者に合わせた交通安全教育等を実施し、広く市民に交通安全を周知することができた。

当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標「No.31 私の暮らしている地域では、歩道や信号が整備されていて安心である」は偏差値が60を上回る結果であったが、客観指標「No.77 人口あたり交通事故件数」の偏差値は51.4となっている。ハード整備だけでは交通事故をなくすことはできないため、継続した交通安全教育等を実施していく。

評価に基づいた令和9年度の取組についての考え方

改正道路交通法の施行により、令和8年4月から自転車に対して交通反則通告制度が導入され、自転車の交通ルールやマナーの周知啓発の重要性が高まっている。令和8年度に策定予定の「第2次草津市自転車安全安心利用促進計画」に基づき、あらゆる世代に対応した交通安全教育を充実させることなどにより、より一層、市民の交通安全意識の高揚を図る。

市民の交通安全の意識の高揚を図ることは、「No.31 私の暮らしている地域では、歩道や信号が整備されていて安心である」といった指標にかかるウェルビーイング向上にも資する取組であると考えており、こうした上昇傾向を踏まえ、引き続き、ウェルビーイング向上の観点からも、あらゆる世代に継続した交通安全教育を実施することで、交通事故のない安全で安心なまちの形成を目指す。

■施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
草津栗東地区交通対策協議会事業	交通政策課	○	交通安全推進団体・関係機関と連携し、交通安全街頭啓発や交通安全シニアカレッジの開催、自転車交通安全マナーアップ重点校事業等を引き続き実施したことにより、広く交通安全意識の高揚を図ることができたため。
交通安全啓発事業	交通政策課	○	交通指導員を中心に関係機関と連携して、幼児・児童等を対象とした交通安全教室を引き続き開催したことにより、幼少期における交通安全意識の高揚を図ることができたため。
自転車安全安心利用推進事業	交通政策課	○	自転車安全安心利用指導員を中心に関係機関と連携して、交通安全啓発や出前講座を引き続き開催するとともに、自転車の青切符について予め周知啓発することで、自転車利用マナーに対する意識の高揚を図ることができたため。

■施策評価シート15-02-①

■施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
交通安全事務	交通政策課
草津栗東交通安全協会補助金事務	交通政策課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未満の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】							
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
31	私の暮らしている地域では、歩道や信号が整備されていて安心である	実数	3.3	3.4			
		偏差値	55.4	60.3			

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】								備考
客観指標No. (令和7年度)	77							